

<研究成果の紹介>

サツキの窒素濃度管理による栽培期間短縮法

農業研究所 園芸研究課

1 成果の内容

植木類の需要は、量販店での個人消費が増加傾向にあり、輸送性、取り扱いの簡便性からコンテナ規格が急速に伸びています。サツキのコンテナ栽培は導入が比較的遅れて始まっていますが、慣行では栽培期間に1年以上を要します。

そこで、コンテナ栽培は投資額も大きく生産コストが多く必要なことから、短期間に流通規格（高さ25cm×株張り25cm）化するための技術について検討しました。

その結果、エブ&フローシステムにより養液の無機態窒素濃度を20~50ppm(NH₄-N:NO₃-N=1:1)で管理することで、鉢上げ後、流通規格に到達するまでの期間を、慣行コンテナ栽培と比べて伊勢シリーズで9ヶ月、「三重サツキ」で7~8ヶ月短縮することができました(図1)。

生育期間の短縮が期待できる無機態窒素の構成は、品種によって異なり、「伊勢小町」はNH₄-N比率が高いほど、「伊勢路紅」はNO₃-N比率が高いほど適し、「伊勢路紫」はNH₄-N:NO₃-N=1:1が適しています(図2)。

各品種とも高濃度の無機態窒素によって生育

障害が発生しますが、窒素濃度50ppm(NH₄-N:NO₃-N=1:1)以下では発生せず、障害の発生には無機態窒素組成により違いがあり、「伊勢路紅」及び「伊勢路紫」はNH₄-N耐性が低く、「伊勢小町」及び「三重サツキ」はNO₃-N耐性が低いことが判明しました(図3)。

以上のことから、共通養液管理での最適無機態窒素濃度は20~50ppm(NH₄-N:NO₃-N=1:1)であり、各品種の無機態窒素の好適性に応じた管理を行うことで栽培期間のさらなる短縮が期待できます。

2 技術の適用効果と適応範囲

新サツキの栽培期間を短縮する技術ですが、本県で多く栽培されている三重サツキを始め、ツツジ類のコンテナ栽培にも技術の適応が可能です。

3 普及・利用上の問題点

無加温温室にてエブ&フローシステムで栽培した結果であることに留意する。

(西山 富紀子)

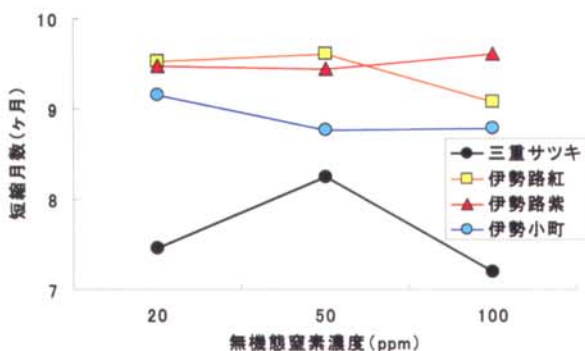


図1 無機態窒素濃度が生育期間短縮に及ぼす影響

耕種概要：挿し木H18年8月、鉢上げ(15cmポット)H19年4月、全区NH₄-N:NO₃-N=1:1、P=100ppm、K=65ppm管理。1日2回(9am、3pm)15分間給液。
短縮月数：鉢上げ後の、慣行栽培における出荷規格サイズ達成月数(12ヶ月)との差。

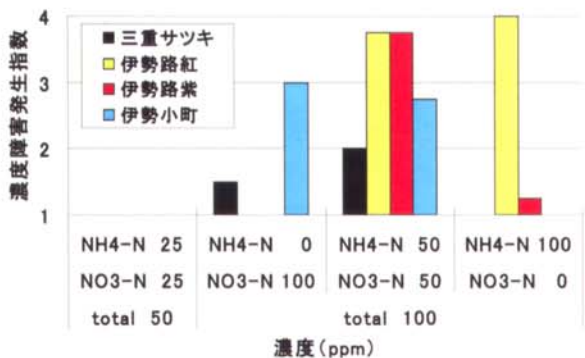


図3 窒素過剰による品種別障害発生程度

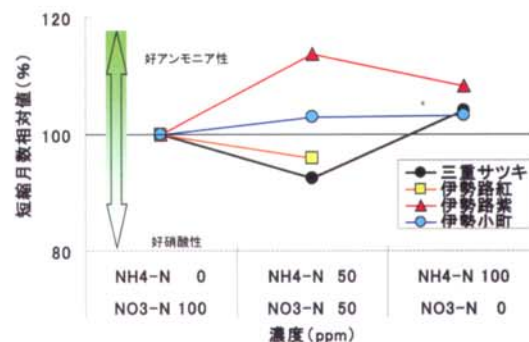


図2 無機態窒素比率が生育に及ぼす影響

濃度障害発生指数

被害程度の平均値

被害程度	内容
4	枯死
3	葉枯れがほぼ全枝に発生
2	葉枯れが50%の枝に発生
1	僅かに症状が認められる
0	障害無し